

令和2年度第1回釜石市介護保険運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和2年10月29日(木) 18:30～
- 2 場 所 釜石市保健福祉センター9階 講義室
- 3 出席者等 出席委員11人
小泉嘉明委員(会長)、栗澤稔委員(副会長)、石田正子委員、内田安子委員、大久保委員、大槻忍委員、久喜眞委員、佐々木てる子委員、佐野和子委員、澤田政男委員、鈴木勝委員、藤原成子委員
- 4 欠席委員 1人 佐々木てる子委員
- 5 事務局出席者 保健福祉部 水野由香里部長
高齢介護福祉課 山崎教史課長、二本松由美子主幹
佐々木義友課長補佐
- 6 傍聴者 無し
- 7 協議事項 (1)令和元年度釜石市介護保険事業特別会計の決算状況について(報告)
(2)釜石市介護保険サービス等の状況について(報告)
(3)釜石市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画(骨子案)について(審議)
- 8 開催経過 ・高田委員の解囑と大久保委員の委囑を報告した。
・釜石市介護保険条例施行規則第9条第2項の規定により、小泉会長が議長となり、議事を進行した。
- 9 開催結果 事務局案のとおり了承された。

主な発言は以下のとおり

(小泉議長)

それでは、議事に入りますが、本日の議事録の署名委員に大久保委員と内田委員を指名いたしますのでよろしくお願いたします。

はじめに、議事の(1)「令和元年度釜石市介護保険事業特別会計の決算状況について」と(2)「釜石市介護保険サービス等の状況について」は、関連がありますので、一括して議題とします。

それでは事務局が説明します。

(事務局)

資料NO.1、2を説明。

- (1)「令和元年度釜石市介護保険事業特別会計の決算状況について」
- (2)「釜石市介護保険サービス等の状況について」

(小泉議長)

それでは、ご質問、ご意見を受けます。

(小泉議長)

65歳以上の方や75歳以上の人口が下がりだしており、市全体の人口も上がっている中で、このことはどう影響してくるのかと感じています。今年はまだ子どもが生まれていない状況ということも聞いているので、それも大変であるという認識です。今年は新型コロナウイルスがありましたが、来年からみんなが豊かに暮らせるような施策を考えていければ

良いと思います。みなさんから質問はありませんでしょうか。なければ次に進んでもよろしいでしょうか。

—質問・意見等なし—

(小泉議長)

それでは(3)の「釜石市高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画(骨子案)について」を議題とします。

事務局が説明します。

(事務局)

資料NO.3を説明。

(3)「釜石市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画(骨子案)」

(小泉議長)

みなさんからご意見やご質問がありましたらいかがでしょうか。

介護に対する考えや予算については国の方針に寄るところも大きいですが、地域は自分たちの出来る範囲内で取組みを行うことが重要です。

高齢者に対して安心を与えるということであればバックアップをしっかりとしないといけないというところもあります。市の方でも、認知症の方のために様々な取組みを行っていますが、なかなか難しい面もあります。子どもたちが、高齢者や認知症の方と手を繋いで横断歩道を渡っているのを見ることもありますが、そういうものが包括的な取組みとしての最後の切り札になってくるように思います。教育と絡めながら行うことも良いように思います。

(事務局)

認知症サポーター養成講座に子どもたちも入ったりしていますので、小さい頃から認知症に理解を持つことは大切なことだと思っています。

(小泉議長)

社会の中で、「みんなで手を繋ぎながらやっていきましょう」という考えが育つと良いと思います。子どもの頃から認知症について勉強していると、かなり認知症への理解が深まるように思います。大人に対して理解を深めるような取組みは難しい面もあります。

(事務局)

大人は余計なことを考えてしまいますよね。

(小泉議長)

大人は色々考えてしまいます。他の人の目もあるので、難しいです。包括ケアの考えでも全体としてのまちづくりの中で、どうやって介護を行っていくかを整理していますが、みんなに周知していくことも難しいです。幼稚園や小学校低学年で、介護についての取組みを行っていくと10年後や20年後に、介護に理解を持つ人が増えると思います。非認知能力を養う意味でも、他の人を助けるということは大切なことでもあります。子どもに対する教育は大切なことかもしれません。

老人クラブの方はどうでしょうか。

(栗澤委員)

老人クラブと言っても老人の中の数パーセントにしかならないです。活動に参加する人もいますが、参加していない人もいますので、その人たちへの働きかけが難しいです。

(藤原委員)

先日、認知症サポーター養成講座に参加してオレンジリングを付けているのですが、良かったと思っています。オレンジリングを付けることで、認知症の方を助けることの意識が高くなります。

(栗澤委員)

栗橋地区の幼稚園は兄弟 2 人しかいない状況です。来年は 1 人卒園して新しく 1 人入園するということですが、これからはどうなるかは分からない状況です。

(小泉議長)

もう少し明るい話題が欲しいですね。とにかくみんなで助け合いながら、介護をしていく必要があります。社会として大きな変革が必要とも言えます。子どもの教育から次の世代を育成していくためには 100 年単位の時間が必要です。

(栗澤委員)

やはり人口減少はダメージが大きいですね。釜石は一気に人口が少なくなり、釜石から出て行った人たちの子どもや孫が、出て行った先で住むことが多くなっています。

(小泉議長)

人口が増えれば良いですが、人口を均衡していくためには、合計特殊出生率は 2 以上が必要です。

(栗澤委員)

暗いことを言ってしまいましたが、明るいことも踏まえて議論をしなければならないですね。

(小泉議長)

ベストな組み方を模索し、総花的な考えではなく、予算配分をしないとイケません。もう少し絞って目指すところを考えていく必要があります。みなさん何かないでしょうか。次回は骨子案に肉付けされた資料がでできますが、そのタイミングでも修正するチャンスはあると思います。

(事務局)

介護人材不足などの状況を踏まえて、8 期計画期間中における新たな施設整備の考え方はどうでしょうか。新たな施設整備の必要性についてご意見をいただきたいのですがいかがでしょうか。

(小泉議長)

データ上 65 歳以上人口のピークが過ぎたということであれば、ある程度、新規整備を抑える必要があるということです。ここ 10 年程度は、人口減少や介護人材不足の状況を踏まえて、ある程度、新規整備を抑えながらやってきた経過があります。むやみに施設を増やすことはしない方がいいと思います。

(久喜委員)

現実問題として施設を建てても働く人がいないということがあります。新しい施設で働き手を確保しても、他の施設では足りなくなるということも起こり得ます。休止や辞める施

設も出てくると思うので、その都度見極めながら行う必要があります。

(小泉議長)

他の産業にも言えることですが、新たな施設を作っても働き手がないということになると、施設としては成り立たないということになります。ただし、介護は特別な施設でもあり、家庭で介護をするのは難しい面もあり、社会的に施設が必要とも言えます。

(久喜委員)

先ほど、子どもの頃からの教育が大事だという話があったが、うちの施設でも小学生の施設見学を実施している。中学、高校生になってインターンシップで施設に行くとということに繋がる。一つの切り口として子供たちが施設に来るように働きかけていく工夫も必要です。

(小泉議長)

施設の役割としてそのような取組みも必要です。行政ができない部分を民間の力を借りることも考えられます。基本的に自立支援、自助のまちづくりをやっていく必要があると思います。

(小泉議長)

8期計画の施設整備については、次回開催等も含めて、引き続き、委員の皆さんと議論していきたい思います。

(小泉議長)

以上でよろしいでしょうか。それでは事務局の方に進行をお返しします。

(事務局)

本骨子案について、引き続き、お気づきの点や修正、ご意見があれば、随時、事務局まで連絡をお願いしたい。次回は12月を予定しております。次回は計画素案を提示し、概算の保険料も示して議論をしていただきたいと思います。ありがとうございました。